



# 自由の鐘

鶴岡市立鶴岡第三中学校  
令和6年1月12日 発行  
校訓 「切磋琢磨」

## 3学期は次年度の準備の学期です!!

久しぶりにみんなが登校し学校に活気と笑顔が戻ってきました。始業式では、顔を上げて耳と心で話を聞く姿が印象的でした。3学期は今年度の締めくくりの学期であるとともに次年度の準備の学期です。進級・進学に向けた実りのある3学期にしていきたいと思います。

### 3学期始業式 校長あいさつ

あけましておめでとうございます。令和6年、そして三学期がスタートしました。

まずは、1月1日に発生した「能登半島地震」でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。能登地方は、昨年5月にも大きな地震に見まわれ、三年生のみなさんが修学旅行で訪れたあとに、募金活動も行ってくれました。それに続いての被災ということ、本当に痛ましい限りですが、被災地の一日も早い復興をみんなでお祈りするとともに、自分たちで何かできることはないのか、考えてもらいたいと思います。

そして二学期の終業式で「当たり前、その日を迎えられることへの感謝」という話をしましたが、改めて今日、平穏に、この日を迎えられたということについて、被災地への思いも馳せながら、一人ひとり、じっくりと考えてもらいたいと思います。

さて、この正月に私の知り合いの方で三中学区に住んでいらっしゃる方から頂いた年賀状に、このようなことが書かれてありました。「鶴三中生の挨拶や礼儀正しさが輝いています。いつも元気をもっています。感謝しております。」

本当に嬉しく思いました。これはたぶん、ひとりだけではなくて、何人もの三中生が、「三中あいさつ宣言」にあるような姿で、あいさつを交わしてくれているからだと思います。みなさんの普段の行動が、地域の人を元気にする、何と素晴らしいことだろうと思います。これからも今まで以上に、学校の中や外でも、元気なあいさつが行き交う学校、生徒であってほしいと思います。

それでは、三年生のみなさん、いよいよ受験が目の前に迫りました。これまでたくさんの人たちから、たくさん励ましを受けてきたかと思いますが、それでも不安はなくならないでしょう。逆に、目標に向かって進めば進むほど、近づけば近づくほど、大きくなるかもしれません。その時には、それを上回る「自信」を持つことが必要です。ただ、自信というのは、自分で自分を信じる力ですから、人からいくら励まされても本当の意味で大きくなるものではありません。それは、自分自身で積み重ねた、時間や努力で大きくしていくものです。

その時に一人では苦しくつらくても、仲間の姿を見て奮起したり、自分の姿で仲間を鼓舞したり、そんな仲間とこれまで培ってきた集団の力で、乗り越えてほしいと思います。頑張ってください。

そしてもう一つ、生徒総会のときに言いましたが、これから卒業までの間、後輩たちに、みなさんの考える鶴三中のよさ、三中生である誇りというものをぜひ残して欲しいと思います。それは形としてはいいものではないです。形あるものを残すより、形ないものを残すほうがずっと難しいのですが、普段の生活する姿や行動で、ぜひ後輩たちに伝えてください。よろしく願います。

二年生のみなさん。みなさんはこれまで、三年生を支え、三年生から学び、成長してきました。先月には、生徒会執行部の引き継ぎの会がありました。みなさんは、選挙で選ばれた側の学年ですが、お互いに選んだ側の学年でもあります。その両方の立場の責任というものをしっかりと考えて、それを果たせるよう、そしてこれから最高学年、三中の顔になるという自覚と決意をしっかりと固められるよう、三学期の生活や学習に励んでください。期待しています。

一年生のみなさん、今月なかばには新入生の入学説明会があります。自分のことを思い出すとあれから一年経ちました。早いですね。

これまでみなさんは中学生として、また三中生として確かに成長してきました。ただ、時には一人ひとりが、また学級や学年が、大きな課題や壁にぶつかったときもありましたが、先生方や友人、そして家族の話や助言に耳を傾け、克服しようと努力してきたと思います。二年生同様、もうすぐ中堅学年となる自覚と決意を持った生活を送れるよう、頑張ってください。心身ともにさらに成長することを期待しています。

最期になりますが、すべての学校行事の中で、最も大切な行事は、いうまでもなく卒業式です。2ヶ月半後の卒業式が、最高の形で迎えられるよう、先生方とともにみんな頑張っていきましょう。

終わります。